

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/08/01 ～2019/8/31)

1. 勉学の状況

8月に入ると授業は一切なかったので自学自習をしていました。ライブツィヒで買ったドイツ語の上級レベル文法の参考書を進める傍ら、たまにタンデムでドイツ人の友達と会話練習をしました。自分のタンデムパートナーの多くは来学期から日本で交換留学をするということで、日本の大学や生活のことなどを教えたりしていました。他には図書館で借りた本を暇な時間に読んでいます。村上春樹のドイツ語訳版が多くそろっており、日本学科の図書館には原語の本も置いてあるので、それと読み比べながら読むといい勉強になります。村上春樹は一文一文を単純に書いているため翻訳版でも読みやすく、単語さえ調べれば簡単に読むことができます。単語力増強には良い勉強法です。

と自分が実践している方法を色々書いてみましたが、やはり授業期間に比べてドイツ語を用いる時間は激減してしまいました。インプットした知識をアウトプットする場が無いのでなかなかモチベーションもうまく保てません。下にも書きましたが今月は断続的に旅行をしたので、行く先々の観光名所でドイツ語ツアーに参加してみたり、現地の人に積極的に質問してみたりなど、自分でできる限りドイツ語会話の機会を増やすしかありません。interDaF のサマーコースに参加している日本人留学生の友人もいますが、3週間のコースのみで845ユーロもかかるので諦めました。

2. 生活の状況



ケットでおなじみの Flixbus の深夜バスでライプツィヒから約9時間（長い…）、早朝にアムステルダムに着きました。中央駅を出たとたんに（初めは何の匂いかわからず後で友達に教えてもらったのですが）マリファナの匂いがしたのを覚えています。こ

このあたりの事情はあまりよく知らなかったのですが、オランダでの大麻の保持・使用は合法なのではなく黙認されているだけであり、行政の管理下で認められた店でのみ販売されているということです。違法であるとはいえ、公共の空間でもマリファナの匂いがしたことには驚きました。町中にあるコーヒーショップでも買おうと思えば誰でも買えてしまうということも恐ろしい話です。またアムステルダムには飾り窓地区という所があり、ここでは売春が容認（？）されているようです。一つの観光地になっており昼間には子連れの家も歩いていたりして驚かされました。このような日本の常識では考えられないことが行われていても治安はそれほど悪くなく、「多少の自由があったほうが犯罪は少なくなる」という考え方の政策も一理あるのかなと皮肉ながら思っています。街自体の風景はまた素晴らしいもので、オランダ旅行中に寄った隣町ハーレムはアムステルダムとは打って変わり穏やかで、オランダと聞いて連想する風景に近いものが見られました。オランダの後はバスでドイツに戻ってケルンとデュッセルドルフを観光し、千葉大に留学していた現地在住の友達と再会を果たしました。ドイツでまた会おうと約束していたのでその目的を果たせて良かったです。

ちなみにこの旅行中は同行していた友人のみと行動していたわけではなく、現地に住んでいるその人の友人に街を案内してもらいながら観光しました。日本人からするといきなり知らない人を紹介されると少し戸惑ってしまいますが、ヨーロッパの人にとっては普通なようです。友人曰く、特にヨーロッパ人にとっては旅行していても地元と同じような風景ばかりでつまらないから、現地の人に出会って案内してもらい、一緒に食事をし、会話を楽しむことが一番大事なのだそうです。考えてみれば特に日本人はどこか観光地に「行く・いる」ことに焦点を置きがちですが、ヨーロッパの人は人との交流を本当に大事にしています。一味違った旅を経験できただけでも有意義な旅行だったと思います。

オランダ旅行以外には大体一人でふらっとライプツィヒ周辺の町に日帰り旅行をしたり、最近

こちらで知り合ったロシア出身の友人と1週間ほどオランダとドイツ国内を旅行し、それが非常に印象的な体験だったので今回はそれを中心に書いていこうと思います。格安チ



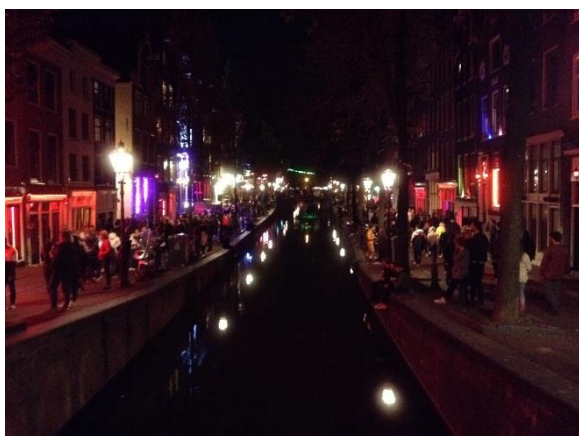
だとニュルンベルクとレーゲンスブルクへ3日間ほどの小旅行をしたりしました。誰かと一緒に会話を楽しみながらする旅行も良いですが、たまにはこうやって一人気の向くままに旅行するのも楽しいです。



旅行以外では一度、ライプツィヒの「日本の家」を訪れる機会がありました。この家の設立から現在までの過程をたどったドキュメンタリー映画の上映会でした。考えてみれば自分はまだこの家のことを日本人でありながらほとんど知らずにおり、この映画を見に行ったのは良い機会でした。この家が建っているアイゼンバーン通りはかつて「ヨーロッパ最悪の通り」と呼ばれていたほど治安が悪かったそうで、現

在は良くなってきたようですが今でもまだネガティブな評判は残っています。そのためなかなか行く勇気の出ない「日本の家」ですが、実際行ってみると非常に興味深いところです。性別や年齢、国籍、宗教などは全く関係なく誰にでもオープンな空間で、そこを良く訪れている人はみんないつも幸せそうに話しています。確かにここを訪れるには安全な地域とは言い難いので日本人留学生は行くのをためらってしまいましたが、それでもどうかして行ってみれば必ず良い出会いがあると思います。

前回の報告書で夏休みをどう過ごそうか迷っていると書きましたが、考えた結果一時帰国することに決めました（実はこの報告書も日本で書いています！）。2週間ほど日本に滞在し、またライプツィヒに戻ります。なぜ一時帰国することにしたのかは来月（自分の気持ちの整理のためにも）書きたいと思います。



アムステルダム
飾り窓地区



ハーレムの運河とつり橋



夜のケルン大聖堂

ケルン市
ナチス記録センター

ゲシュタポに逮捕された人の拘留施設





デュッセルドルフ
ライン川の眺め

レーゲンスブルク
世界遺産の旧市街と
ドイツ最古の橋 Steinerne Brücke



シラーの家（ライプツィヒ）
彼はライプツィヒ滞在中、
第九で有名な歓喜の歌を書いたと言われている

ゲヴァントハウス管弦楽団
新シーズン開幕公演

